

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-301339

(P2007-301339A)

(43) 公開日 平成19年11月22日 (2007. 11. 22)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 C 7/44 (2006. 01)	A 4 7 C 7/44	3 B 0 8 4
A 4 7 C 1/024 (2006. 01)	A 4 7 C 1/024	3 B 0 9 9

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2006-194194 (P2006-194194)	(71) 出願人	594089153 プローコルド・ソシエタ・ペル・アチオニ Pro-Cord Spa
(22) 出願日	平成18年7月14日 (2006. 7. 14)		
(31) 優先権主張番号	06425324.8		
(32) 優先日	平成18年5月12日 (2006. 5. 12)		
(33) 優先権主張国	欧州特許庁 (EP)	(74) 代理人	100084146 弁理士 山崎 宏
		(74) 代理人	100100170 弁理士 前田 厚司
		(74) 代理人	100122943 弁理士 岡崎 博之
		(72) 発明者	ジャンカルロ・ピレッティ イタリア、イー40137ボローニャ、ピ アッツァ・トレント・エ・トリエステ2/ 2番
		最終頁に続く	

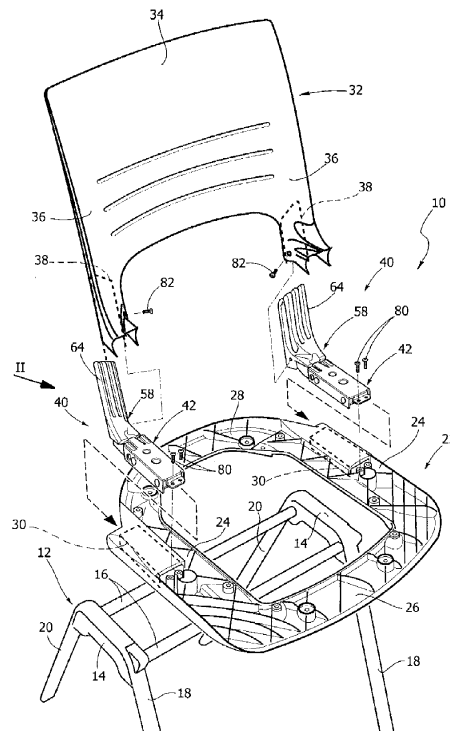
(54) 【発明の名称】 傾斜角度を変更できる背もたれ付きの椅子

(57) 【要約】

【課題】 椅子の種類が異なっても、ベース構造部の改良を必要とせず、後方傾斜機能を確保できるように改善された椅子を提供する。

【解決手段】 本発明は、弾性手段40を備え、該各弾性手段40は、上方部46と下方部48と側壁44とを有するケース部42と、該ケース部42の側壁44に支持された接続用ピン56を介して前記ケース部42に接続され、背もたれ支持部60とリアクション部62とを有する揺動部材58と、前記ケース部42の上方部46に抗する一端部と、前記揺動部材58のリアクション部62に抗する他端部とを有し、前記ケース部42の下方部48に近接するように前記リアクション部62を付勢する少なくとも一つの弾性材78とからなり、前記各弾性手段40のケース部42は、ベース構造部12から独立した分離可能な部材として構成され、シート構造部22の台座部30に挿入される

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ベース構造部（１２）と、
該ベース構造部（１２）に固定されるシート構造部（２２）と、
使用者が後方に寄りかかることで後方傾斜角度を変更できる背もたれ（３２）と、
該背もたれ（３２）を支持し、静止位置に前記背もたれ（３２）を弾性的に復帰させる
ように構成された２つの弾性手段（４０）とを備え、
該各弾性手段（４０）は、
上方部（４６）と下方部（４８）と側壁（４４）とを有するケース部（４２）と、
該ケース部（４２）の側壁（４４）に支持された接続用ピン（５６）を介して前記ケー
ス部（４２）に接続され、背もたれ支持部（６０）とリアクション部（６２）とを有する
揺動部材（５８）と、
前記ケース部（４２）の上方部（４６）に抗する第１端部と、前記揺動部材（５８）の
前記リアクション部（６２）に抗する第２端部とを有し、前記ケース部（４２）の下方部
（４８）に近接するように前記リアクション部（６２）を付勢する少なくとも一つの弾性
材（７８）とからなる椅子において、
前記各弾性手段（４０）のケース部（４２）は、前記ベース構造部（１２）から独立し
た分離可能な部材として構成され、前記シート構造部（２２）の台座部（３０）に挿入さ
れることを特徴とする、椅子。

【請求項 2】

前記シート構造部（２２）は、側方部（２４）を備え、該側方部（２４）には、後方が
開口して前記弾性手段（４０）のケース部（４２）が挿入される台座部（３０）が設けら
れていることを特徴とする、請求項 1 に記載の椅子。

【請求項 3】

前記背もたれ支持部（６０）は、前記背もたれ（３２）に設けられた台座部（３８）に
挿入される長片部（６４）を有することを特徴とする、請求項 1 に記載の椅子。

【請求項 4】

前記ケース部（４２）は、略直方状に構成され、前記ケース部（４２）の下方部（４８）
が、前記ケース部（４２）の側壁（４４）に形成されたタブを折曲して形成されている
ことを特徴とする、請求項 1 に記載の椅子。

【請求項 5】

前記各揺動部材（５８）の背もたれ支持部（６０）は、射出成形されたプラスチック材
で構成されていることを特徴とする、請求項 1 に記載の椅子。

【請求項 6】

前記各揺動部材（５８）の背もたれ支持部（６０）は、型打ちされた金属板で構成され
ていることを特徴とする、請求項 1 に記載の椅子。

【請求項 7】

前記各弾性手段（４０）は、前記ケース部（４２）の上方部（４６）と前記リアクショ
ン部（６２）の底壁（６６）との間に相互に並列して配置された圧縮状態の２つのつる巻
きバネ（７８）を備えることを特徴とする、請求項 1 に記載の椅子。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、使用者が後方に寄りかかることで傾斜角度を変更できる背もたれ付きの椅子
に関する。

【背景技術】

【0002】

本願と出願人を同一とする欧州特許出願 1 5 5 7 1 1 5 号には、以下のような特徴を有
する椅子が開示されている（特許文献 1）。前記公知の解決手段では、背もたれは、使用
者が後方に寄りかかることで、静止位置に対する後方傾斜角度を変更することができる。

背もたれは、2つの弾性手段を介して椅子のベース構造部に連結されている。2つの弾性手段は、背もたれを支持し、背もたれを静止位置に弾性的に復帰させることができる。前記各弾性手段は、背もたれに固定される第一セクション部と、弾性部材と協働する第二セクション部とを有するレバーを備える。前記レバーの第二セクション部は、椅子のベース構造部に一体的に形成されたケース部に収容される。

【0003】

椅子の製造業者にとっては、背もたれの後方傾斜を実現できる構造を様々な種類の椅子に適用できることが常に要求されている。前記欧州特許出願1557115号に記載の解決手段では、ベース構造部が背もたれを後方へ傾斜させる弾性手段を保持するように、ベース構造部を特定の形状で構成する必要がある。このため、背もたれの後方傾斜を実現できる構造を様々な種類の椅子に適用するには、ベース構造部をそれぞれの種類に合わせて設計する必要がある。

10

【特許文献1】欧州特許出願1557115号

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

本発明は、椅子の種類が異なっても、ベース構造部の改良を必要とせず、後方傾斜機能を確保できるように改善された椅子を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

前記目的を実現するための手段として、本発明は、ベース構造部と、該ベース構造部に固定されるシート構造部と、使用者が後方に寄りかかることで後方傾斜角度を変更できる背もたれと、該背もたれを支持し、静止位置に前記背もたれを弾性的に復帰させるように構成された2つの弾性手段とを備え、該各弾性手段は、上方部と下方部と側壁とを有するケース部と、該ケース部の側壁に支持された接続用ピンを介して前記ケース部に接続され、背もたれ支持部とリアクション部とを有する揺動部材と、前記ケース部の上方部に抗する第1端部と、前記揺動部材の前記リアクション部に抗する第2端部とを有し、前記ケース部の下方部に近接するように前記リアクション部を付勢する少なくとも一つの弾性材とからなる椅子であり、前記各弾性手段のケース部は、前記ベース構造部から独立した分離可能な部材として構成され、前記シート構造部の台座部に挿入される。

20

30

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

添付の図面を参照して、本発明を詳細に説明するが、添付の図面は、本発明の実施形態を限定するものとして提供されるものではない。

【0007】

図1中、参照数字10は、本発明の椅子を示している。椅子10は、様々な種類の椅子に対応できるベース構造部12を備える。図示の実施形態においては、ベース構造部12は、2つの横棒材16を介して連結された2つの側方支持部14を備える。各側方支持部14は、フロントレッグ部18及びリアレッグ部20に一体的に固定されている。しかしながら、ベース構造部12の具体的な形状は、本発明の目的に関連するものではなく、後述において明らかとなるが、本発明によれば、ベース構造部が背もたれを後方へ傾斜させるように特定の形状で設計されていなくても、静止位置への弾性的復帰を伴う背もたれの後方傾斜機能を、あらゆるタイプのベース構造部を備えた椅子に適用できる。

40

【0008】

図1中、参照数字22は、ベース構造部12に固定されるシート構造部を示している。シートパッド（不図示）は、シート構造部22に固定される。シート構造部22の構成を変更しない範囲であれば、シートパッドは椅子の種類に応じて変更することができる。シート構造部22は、略フレーム状に構成され、射出成形されたプラスチック材で製造されているのが好ましい。シート構造部22は、フロント部26とリア部28とを介して連結された2つの側方部24を備える。シート構造部22にネジ孔を備えた突起部を設け、シ

50

ート構造部 2 2 がネジ材（不図示）でベース構造部 1 2 に固定され、かつ、シートパッドが（不図示のネジ材で）シート構造部 2 2 に固定される。

【0009】

シート構造部 2 2 には、2 つの台座部 3 0 が設けられている。2 つの台座部 3 0 は、シート構造部 2 2 の側方部 2 4 の側部後方に沿って延在している。前記 2 つの台座部 3 0 は、略直方状に構成され、その後方部が開口している。

【0010】

椅子 1 0 は、背もたれ 3 2 を備える（図 1 参照）。背もたれ 3 2 は、射出成形されたプラスチック材で構成されるのが好ましい。背もたれ 3 2 は、2 つの垂直部 3 6 によって横方向に規定された支持部 3 4 を備える。各垂直部 3 6 の下方端部には、下部が開口した台座部 3 8 が設けられている。

10

【0011】

本発明の椅子 1 0 は、2 つの弾性手段 4 0 を備える。2 つの弾性手段 4 0 は、背もたれ 3 2 を支持し、かつ、背もたれ 3 2 を静止位置に弾性的に復帰させるように構成されている。

【0012】

各弾性手段 4 0 は、ケース部 4 2 を備える（図 2 及び図 5 参照）。ケース部 4 2 は、型打ちされた（stamped）金属板で構成されているのが好ましい。ケース部 4 2 は、略直方状に構成されている。ケース部 4 2 は、上方部 4 6 に対して垂直に延在する 2 つの側壁 4 4 を備える。図 4 に示されているように、側壁 4 4 の下端部には、上方部 4 6 に対して平行に延在する折曲タブ 4 8 が設けられ、ケース部 4 2 の下方部を構成する。上方部 4 6 には、前方に向かって突出するフロントタブ 5 0 が設けられている。フロントタブ 5 0 には、ネジ挿通孔 5 2 が設けられている。ケース部 4 2 の側壁 4 4 には、位置合わせ用孔部 5 4 が設けられている。位置合わせ用孔部 5 4 は、接続用ピン 5 6 を支持する。位置合わせ用孔部 5 4 は、ケース部 4 2 の後方端部付近に形成されている。

20

【0013】

各弾性手段 4 0 は、略 L 字状のレバーとして構成された揺動部材 5 8 からなる。揺動部材 5 8 は、接続用ピン 5 6 でケース部 4 2 に接続されている。

【0014】

揺動部材 5 8 は、背もたれ支持部 6 0 とリアクション部 6 2 とを備える。図示の実施形態では、背もたれ支持部 6 0 とリアクション部 6 2 とは、異なる 2 つの材料で構成され、相互に固定されている。具体的には、図示の実施形態の背もたれ支持部 6 0 は、プラスチック材で構成され、リアクション部 6 2 は、型打ちされた金属板で構成されている。背もたれ支持部 6 0 とリアクション部 6 2 の両方を同一の材料で構成してもよく、その場合には、揺動部材 5 8 は一体成形で製造される。背もたれ支持部 6 0 は、背もたれ 3 2 の台座部 3 8 に挿入される長片部 6 4 を有する。リアクション部 6 2 は、略チャンネル状に構成されている。リアクション部 6 2 は、底壁 6 6 と 2 つの側壁 6 8 とを備える。側壁 6 8 には、位置合わせ用孔部 7 0 が設けられている。接続用ピン 5 6 は、位置合わせ用孔部 7 0 と背もたれ支持部 6 0 に設けられた挿通孔 7 2 に挿通されて延在している。リアクション部 6 2 は、ネジ材 7 4 で背もたれ支持部 6 0 に固定されている。リアクション部 6 2 には、ケース部 4 2 の折曲タブ 4 8 に対応して配置された窓部 7 6 が設けられているのが好ましい。

30

40

【0015】

弾性手段 4 0 は、少なくとも 1 つの弾性材 7 8 を備える。弾性材 7 8 は、ケース部 4 2 の上方部 4 6 とリアクション部 6 2 の底壁 6 6 との間に配置されている。図示の実施形態では、弾性手段 4 0 には、相互に並列した 2 つの弾性材 7 8 が設けられている。2 つの弾性材 7 8 は、上端部が圧縮されてリアクション部 6 2 の底壁に抗するつる巻きバネでそれぞれ構成されている。弾性材 7 8 は、揺動部材 5 8 のリアクション部 6 2 がケース部 4 2 の下方部（折曲タブ 4 8）に抗する状態を維持するように構成されている。

【0016】

50

ケース部４２は、ベース構造部１２及びシート構造部２２から独立した分離可能な部材として構成されている。ケース部４２は、シート構造部２２の各台座部３０に固定されるように、その形状が直方状に構成されている。図１に示されているように、各弾性手段４０のケース部４２は、椅子の後方に設けられた開口部を介して各台座部３０に挿入される。各弾性手段４０は、ケース部４２のフロントタブ５０のネジ挿通孔５２に挿通したネジ材８０で、シート構造部２２に固定される。

【００１７】

背もたれ３２は、適切な位置で組み合わせた状態で、弾性手段４０を介してシート構造部２２に連結される。弾性材７８は、背もたれ３２が静止位置にとどまるように構成されている。使用者が背もたれ３２に寄りかかると、背もたれ３２が後方へ傾斜する。前記のように使用者が背もたれ３２に寄りかかった場合には、弾性材７８の弾性力に抗して２つの揺動部材５８が傾斜する。図５は、背もたれ３２の位置が後方へ最大限傾斜した状態にある弾性手段４０を示している。リアクション部６２の側壁６８とケース部４２の上方部４６の内側が接触した場合に、背もたれ３２の位置は後方へ最大限傾斜する。

10

【００１８】

弾性手段４０は、全体としてベース構造部２２と無関係で独立したモジュール式の部材である。これにより、背もたれ３２が後方へ傾斜する機能を、あらゆる種類の椅子に適用することができ、椅子のベース構造部２２を特定の形状に改良したり、設計したりする必要がない。本発明の椅子のシート構造部２２も、異なった種類のベース構造部１２に適用することができるモジュール式の部材として構成されている。前記シート構造部２２には、椅子の種類によって特徴の異なるシートパッドが取り付けられる。

20

【００１９】

本発明の解決手段は、組立部品の簡素化及び部品点数の少数化を実現する点に特徴がある。単に弾性手段４０をシート構造部２２の台座部３０に挿入し、かつ、弾性手段４０の長片部６４を背もたれ３２の台座部３８に挿入することで、背もたれ３２をシート構造部２２に取り付けることができる。背もたれ３２は、ネジ材８２で弾性手段４０に固定される。

【図面の簡単な説明】

【００２０】

【図１】本発明の椅子の斜視図である。

30

【図２】図１中、矢印ⅠⅠで示された弾性手段の拡大斜視図である。

【図３】図２の弾性手段の分解斜視図である。

【図４】図２の弾性手段の底面方向の斜視図である。

【図５】図２の弾性手段のⅠⅤ－ⅠⅤ線断面図であり、背もたれの位置が後方へ最大限傾斜した状態にある弾性手段を示している。

【符号の説明】

【００２１】

- １０ 椅子
- １２ ベース構造部
- １４ 側方支持部
- １６ 横棒材
- １８ フロントレッグ部
- ２０ リアレグ部
- ２２ シート構造部
- ２４ 側方部
- ２６ フロント部
- ２８ リア部
- ３０ 台座部
- ３２ 背もたれ
- ３４ 支持部

40

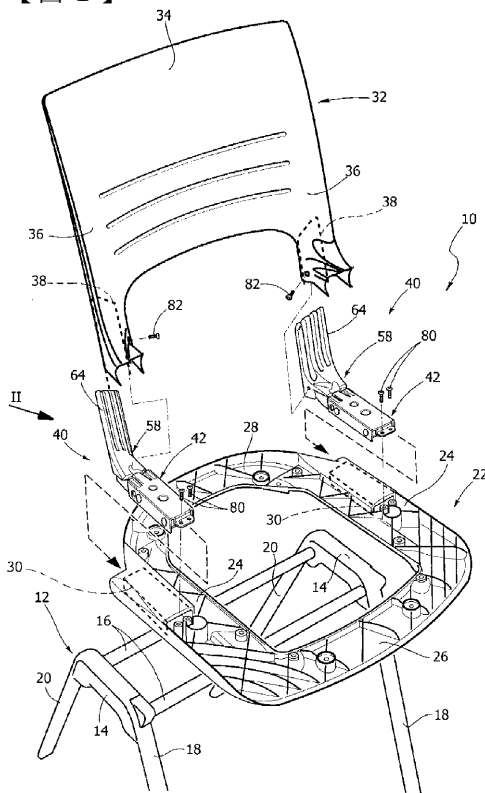
50

- 3 6 垂直
- 3 8 台座部
- 4 0 弾性手段
- 4 2 ケース部
- 4 4 ケース部の側壁
- 4 6 ケース部の上方部
- 4 8 折曲タブ
- 5 0 フロントタブ
- 5 2 ネジ挿通孔
- 5 4 ケース部の位置合わせ用孔部
- 5 6 接続用ピン
- 5 8 揺動部材
- 6 0 背もたれ支持部
- 6 2 リアクション部
- 6 4 長片部
- 6 6 リアクション部の底壁
- 6 8 リアクション部の側壁
- 7 0 リアクション部の位置合わせ用孔部
- 7 2 背もたれ支持部の挿通孔
- 7 4 ネジ材
- 7 6 リアクション部の窓部
- 7 8 弾性材
- 8 0, 8 2 ネジ材

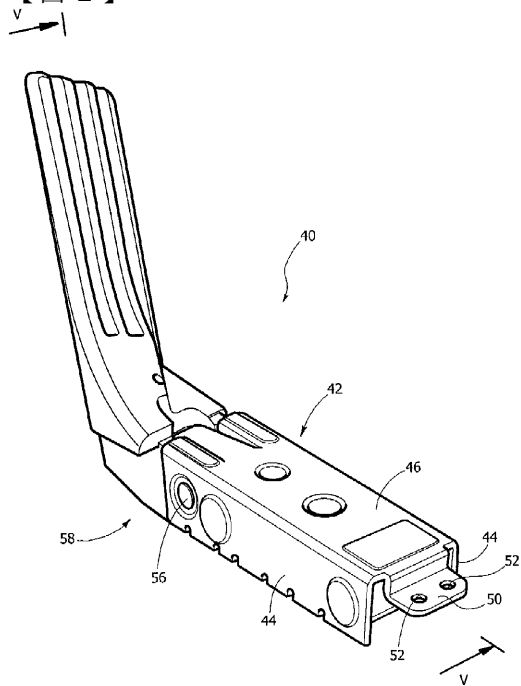
10

20

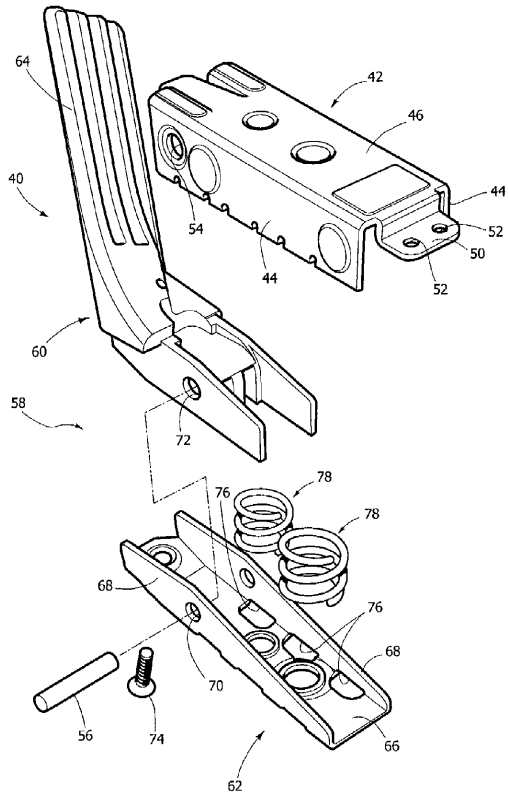
【図 1】



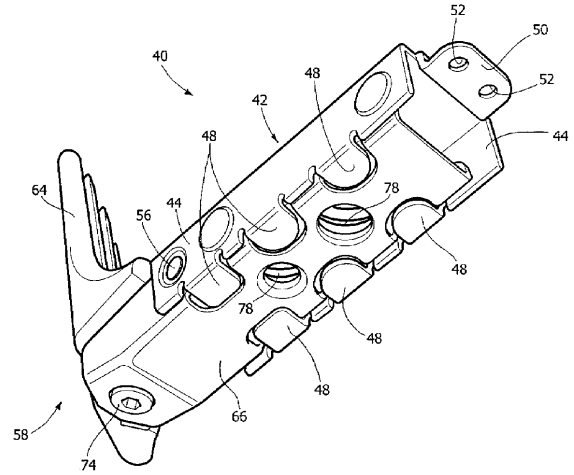
【図 2】



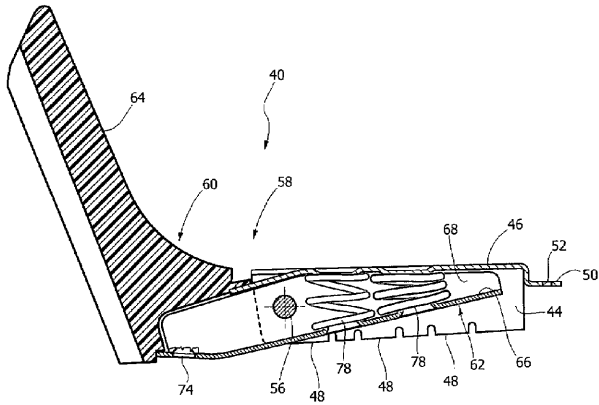
【 図 3 】



【图 4】



【図 5】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3B084 GA01
3B099 BA04